

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所ながかみ			
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 3日		～	令和 7年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 3日		～	令和 7年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 5日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自然豊かな開放感のある「ながかみこども園」の中に併設しているので、同じ生活の中で模倣したり、手伝ってもらいながら人との関わり方を学ぶことができる。	個別で丁寧に関わる支援や大きい子に手伝ってもらったり、真似してやろうとする姿を大切に手を出し過ぎない見守る支援を心掛けている。困っている人に手を差し伸べてくれる優しさや、素直に感謝を表現できるコミュニケーションの獲得など子ども同士の関わりの中で社会性を身に付けられるようにする。	大人が関わり方の見本を見せることで他児が真似して関わろうとしてくれる姿を認めていく。その際、必要に応じて一緒に手伝う方法を声掛けや行動で示すことで利用児童の身の回りのことができるようになる支援をしていく。
2	コーナー遊びを展開することで好きな遊びや好きな場所、好きな人を自分で選択し、時間に縛られることなく生活することができる。	主体性を育む為、応答的なやりとりを通して一人ひとりの思いや考えを知ろうとする姿勢を常に大切にしている。職員も1年間同じコーナーを担当することで専門性を極め、自分自身が楽しむことで子どもの興味や憧れを引き出し、やってみようとする気持ちが芽生えるような関わりを大事にしている。	こども園の職員と協力して様々な活動を利用児童が体験できるよう連携を図ることで、好きな遊びを増やせるようにする。利用児童の好きな遊びを職員間で共有し、一緒に遊びながら他児も巻き込むことで、子ども同士の関わりを自然と増やしていく。
3	散歩やさくらさくらんぼのリズムを取り入れることで、体力・筋力の向上や体幹を生活の中で鍛えられる環境を整えている	季節の移り変わりを感じられるようコースを変更したり、目的をもって公園へ行くことで体力をつけられるようにしている。週1回のリズムだけでなく生活の中で姿勢に気をつけたり、動きを取り入れた遊びを取り入れたりしながら意図的に身体の動きを獲得できるようにしている。また、定期的に森林公園へ行き、不安定な道や階段など歩き慣れないコースをあるくことでバランス感覚を養う。	散歩先で制作をしたり、畑で収穫体験をするなど目的をもって散歩に出かけられるようにする。また、手を挙げて左右を確認するなど繰り返し伝えて実践することで交通ルールを理解できるよう関わる。ファミリーデーや親子遠足などを活用し、保護者の方にもリズムの動きを楽しんでやってもらうことで、家庭でも子どもと一緒に実践してもらえるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間の情報共有が足りず伝達不足がみられる。	日中の遊んだ様子や生活の関わり、怪我の報告等職員間での共有ツールが伝え合いのみになっている。	・休みや迎えの時間の変更などあらかじめ分かっていることはメモを活用してもらう。 ・受診予定や怪我の共有など朝ノートを使用して、職員の誰もが知っている状態にできるようにする。
2	保護者同士の交流やきょうだいへの支援に満足されていないと感じる。	懇談会やココペリ会の再開など交流する機会を増やしているが活動内容などは事業所主導で動いてしまっている。	・懇談会の内容を保護者とともに考えて、外部講師を招くなど子どもへの理解や情報提供の場にしていく ・ココペリ会も内容から保護者と考えていき、一緒に準備をしていくなど集まる機会を増やしていく
3	職員の保育の質向上や人材育成の強化	若い人材が増えて職員間のコミュニケーション不足や関係機関や他事業所との連携や人脈づくりの機会が少ない	・会議等を利用して事例検討会をすることで、関わり方や他者の考え方、アドバイスを聞く機会を設ける。自分の行動や関わりを常に振り返り、子どもとの信頼関係を築き続けていく。 ・勤務内で業務を終わらせられるよう、現場の保育とパソコン業務などの事務仕事のバランスを考え、時間を意識して取り組むようにする。